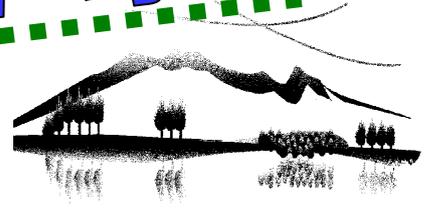


# まちネットワークより まちネット寄居 私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

# さあ 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

## 発信!! 2010年まちネット寄居



1月30日まちネット寄居総会を開催。出席8名、委任状24名。2010年度も活動の基本は「私発」です。生活の中の不安や課題を一人ひとりが声をあげ、話し合い、共有し、解決に向けた活動に取り組んでいきましょう。同時に、会員相互の交流も兼ねて楽しい交流会、講習会などの企画にも是非ご参加ください。

今年度も2008年からの継続で、すぐ始められる身近なごみ減量の取組としてダンボールコンポストの普及に力を入れていきます。この2年間、気温の低いとき、虫がわいてしまった時などの対策や、失敗例成功例など試行錯誤の情報交換をし、さらにステップアップしていきます。

「案外手抜きしてもちゃんと堆肥になるのよね」といった声も。これらの取り組み情報を整理して、さらに多くの方が気楽に取り組めるよう働きかけて行きたいと思えます。

また参加者から大好評だった鍋帽子の調理も工夫を広げて推進していきます。

重点課題となっている8月1日

投票の寄居町長選挙ですが、この間3人の方が立候補予定をしていますが、際立った違いが見えないなど一般町民にとって争点のない状況で、静観というより、無関心層も厚いように見受けられます。まちネット寄居では当初政策協定を目指していましたが、思うように動けない状況でもあります。残り3ヶ月間、積極的に情報収集した中で今後の対応を表明して行きたいと思えます。

## 小さな声を集めて 大きな力に!



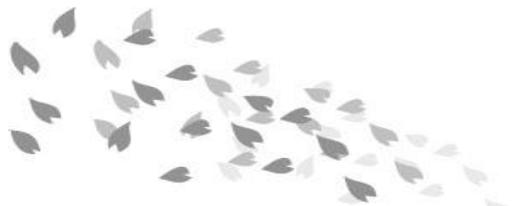
さらに来年の統一地方選挙への取組をどうして行くのか昨年から大きな課題でもあります。代理人のいないネットの活動の厳しさは覚悟の上でやってきていますが、議会からのいち早い情報や働きかけなど議員を擁立した活動・展開はネットのめざすところではあります。ネットの議員を今後どのように誕生させていくか、決してたやすいことではありませんが、ネットワーク運動で提唱している政治の場へ私たちの代表をあげていくことは不可欠なことを、再度確認する必要があります。しかしながら、どの次期どのような戦略でなど、まずはネット会員の皆さんの意志、思いを届けてください。

大北秀子



# 請願は不採択

私たちの選択の自由は保障されないの？



3月議会の傍聴へ行ってきた。12月に続き2回目ともなれば、いくらか様子も分かってきて、少しらしいの「一体、何、考えてんだ！」発言にも、驚かなくなっていた。最初の数分間は！！

しかし、やっぱり、聞いているうちに、カッカしてきた。ソシテ、イヨイヨ呆れてきた。ツイニ、はたと、思い至った。今まで、傍聴を1回もしないで議員まかせ、人任せにしてきた自分がイケナかったんじゃないか・・・！！と。

自分が選んで、自分が払っている町税で働いて貰っている議員さんの仕事ぶりを見ないでいたなんて、ヌカッタ。

さて、私達が12月議会へ提出したのは「食品表示制度の改正について国への意見書提出を求めます」

という請願だった。

これは、

1. 加工食品のトレーサビリティと原料原産地の表示を義務化すること：現状では表示義務があるのは20食品群だけ。

例えば、遺伝子組み換えナタネから作られた「てんぷら油」には表示義務がない為、ほとんどの人がそれとは知らず食べている。

2. 遺伝子組み換え食品・飼料の表示義務化：現状では義務があるのは32食品群だけ。

3. クローン技術でつくられた家畜の表示を義務化：しかし任意表示の為、表示されることはほぼ、ない。

という、内容だった。

これに対して議会では「トレーサビリティ(=食品の履歴=どの様に作

ったか)を農家に求めるのは酷だ」とか「厳しい表示制度を食品業者に求めても、却って偽装を生みかねない」とか「国に法制化を求めるより、食品業者がホームページ等を使って消費者に知らせればいいだろう」などの意見が出た。

結果、請願は不採択だった。自分が口にしているものが、どんなものなのか？知りたい、という願いをくみ取ろうとしない議員に失望したが、寄居町議会、このままじゃイヤだ。だって、住み続けていくつもりだから。やっぱ、6月も傍聴に行こーっと！

矢嶋京子

## ◆ 3月町議会一般質問議員と内容

	押田秀夫	佐藤理美	田母神節子	大平久幸	佐野千賀子	本間登志子	石井康二
福祉・健康・育児		赤ちゃんの駅 子育てがイデ					子どもの体力 向上施策
教育・学校				給食センター民間 委託の検証	給食無償化		学校教育充実 の具体的施策
環境			三ヶ山埋立跡 地の太陽光発 電利用				
観光・産業 ・地域経済				鉢形城公園整 備と管理、歴 史館運営	エキナセア特 産品普及推進 町のキャラクター	ホンダ稼働詳 細 観光樹木整備	
道路・交通・水道							
救急・防災・防犯							
交流・市民活動 ・自治・人権	青少年活動支 援						
上記以外の 生活と暮らし		高齢者自助介 護ポイント制 よりいふれあい サービス周知	庁舎北入口寒 風対策		寄居駅北口駐 輪場管理	寄居駅エレバ ーター設置	
行政・政策・議会	チャレンジプランの 成果 現町長の実績 と進退		非正規職員の 現況 職員削減とサ ービス向上				
その他							

# 常任委員会ってどうしたら傍聴できるの？

## 委員長の許可があれば傍聴できるってあるのに



昨年12月議会へ、生活クラブ寄居支部より「食料の自給力向上と、食の安全・安心の回復に向けて食品表示制度の抜本改正について国への意見書提出を求めます」という請願が出されました。その際に、請願を付託された産業建設常任委員会の傍聴を申し込みました。

現在、寄居町議会の常任専門委員会は、その委員会の委員長の許可があれば傍聴できるとしています。しかし、結果は許可できないということでした。その理由として、委員会所属議員の中で賛成と反対があつて、合意が得られなかった。一人でも反対の議員がいれば委員長としては許可できない。という説明を直に受けました。

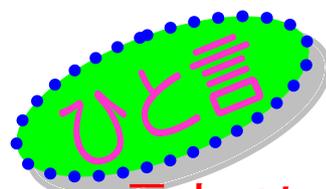
### 説明が食い違う

今年の3月議会へも産業建設常任委員会の傍聴を議会事務局を通して申し込みましたが、当日の夕刻に事務局より「傍聴はできないと委員長から回答された」という返事を電話にてうけました。理由は前回同様、委員会の全議員一致の承諾が得られなかったということでした。しかしその後、所属する議員から委員長からそんな打診は受けていないということを聞きました。事務局側からの説明と食い違っていています。生活クラブ寄居支部組合員も直に行つて傍聴を申し込みましたが、ほかの案件もあるからと言われて断られた経緯があります。同じように傍聴を申し込みながら、まったく違った回答を受けるということは理

解できません。この対応はどうなっているのでしょうか？

委員長の許可があればという但書きはあつても現実には理由も定かでなく拒否されていることになります。慣例でしか対応できない閉鎖的な議会を痛感します。私たちの代表でありながら、なぜ？ 結局一般町民に傍聴はされたくないと思わざるを得ません。町議会でスローガンとしてあげている「開かれた議会」はどこへ行ったのでしょうか？

12月議会へ提出した要望事項（ネット通信No.24号かネットH.Pを参照）の取組の継続を今後も進めていきます。次回6月議会へ傍聴にいきましょう！！



言わせて

介護者の心の相談窓口を!

介護者交流会から

介護をはじめて経験する人たちは、制度の利用、福祉機器、介護用品、介護技術など、みな同じようなところで迷い、壁にぶつかつたりしている。介護は、生活。介護の悩みは、生活の悩みなのである。しかし、家庭内の悩み事をなかなか外には向けないのが日本人である。

認知症の周辺症状に悩まされ、どう接したらいいのか悩み、思いがけない家族の変貌ぶりに心

を痛める。オムツがうまく合わず夜中や明け方に大騒ぎして寝不足となる。「介護」は、出口の見えないトンネルにいるようだと多くの人が口にする。そのイメージは、介護保険が始まって11年目に入った今でも、劇的に改善されたとは言い難いのではないか。特に、認知症や精神疾患、それまでの家族関係の確執などによっては、介護認定の度合いに関係なく、介護者の辛さは簡単には推し量れないものがある。このような介護者の主観的な負担感をどうすれば軽減できるのだろうか。それが、今後の家庭内介護の大きな課題であることは間違いないと思う。

### 介護者同士の交流の場を

先日、家族の介護をしている人を対象とした介護者交流会に参加したときのことである。ある参加者が、「本人をデイサービスに送り出した後は、何もする気が起きず、人に会うのも億劫で閉じこもるような日々です。今日は、勇気を振り絞って足を運んできました。」と声を詰まらせながら自己紹介をすると、ほかの参加者も大きく頷きながら耳を傾けていた光景が印象的だった。どんなに辛くても家族として面倒を見たいという気持ち、愛情や義務感と精神的・肉体的な負荷とのジレンマにどんなに多くの介護者が悩んでいることか。せめて、実践的な介護技術や介護用品などの情報を丁寧に教えてくれるアドバイザーや介護者の心の相談役が必要である。ケアマネージャーも含

め、介護相談窓口も増えてはいるが、介護者の心の相談まで積極的に引き受けているところはまだ少ない。

介護する側、される側、双方の人生を尊重できる介護環境を社会で考えていくことが大切である。寄居町では、社会福祉協議会が介護者の交流の場をつくらうと少しずつ動き出している。介護者同士が交流することで共感し力づけ合ったり、介護にまつわる細かな課題をどんどん家庭から発信していく切っ掛けとなればと、願っているところである。

篠原由実子

## ネット会員募集中 いつでもどうぞ！

一人の声は小さくてもみんなの声が集まれば、少しずつ変わっていきます。

問い合わせ・申し込みは

大北 TEL582-4073 まで



2009年9月にまちネット寄居のホームページが立ち上がりました。まちネット寄居で検索してください。またご意見、ご要望などお寄せください。



## 地方議会議員年金廃止に向け

議員アンケート発送

1961年に始まった地方議員年金制度は、3期12年で受給資格が得られ、他の公年金と重複加入が出来るなどきわめて優遇された制度です。現在、掛け金と給付の見直し、公費投入率を上げているにもかかわらず破綻寸前にあります。私達は生活クラブのネットワーク運動の中で廃止に向けて運動を進めています。3月、寄居町議会議員にこの年金に関するアンケート調査を実施しました。16名の議員へ発送し現在2通の返信がありました。結果は後日報告します。

## information

# お知らせ

## ダンボールコンポスト交流会

企画:まちネット寄居

共催:まちネット寄居・生活クラブ寄居支部

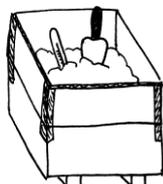
●5月26日(水)

●午前10時30分~12時

●寄居町中央公民館 1F 工芸室にて

2008年に寄居支部と共催で始めた、ダンボール箱を使って生ゴミを堆肥にする方法です。

初めての方も参加できます。失敗談、困っている事、この冬も無事継続、出来た堆肥の活用など情報交換します。なお、基材も1セット500円にてお分けします。詳しくは後日チラシが入ります。



## 編集後記

寄居町長選挙まであと3ヶ月。新人3人の三つ巴といわれているが、周辺では今のところ盛り上がることなく、むしろ選挙に対してしらけた様相だ。昨秋の衆議院選挙での政権交代後、期待が大きかった分その期待を覆すマスコミの報道のすさまじさなどに嫌気が指している感もある。そんな影響もあってか、誰が首長になってもほとんど変わらないといった声も。が、最初からあきらめていては私たちの不安はいつまでたっても解消されない。この町で暮らせてよかったと思える町にしていくためには、人任せではどうにもならない。自分にできることをあきらめずに続けていくしかない。そんな中で、人生50年から80年、90年と長い道のりを得た現代人。一昔前の隠居暮しができなくなっている。生涯現役もよいが、いつまでたってもギラギラと名誉欲、権力欲から抜け出せない人が政界でもうようよ。次の世代へうまくスライドしていくことの勇氣も必要。一昔前の人たちは、自分の穏かな着地期間が隠居暮しだったのかも。私の周辺でも、自分の終い方を意識するようになったという人が増えてきた。この3月は、私事ながら4件もの葬儀が続き、人の終わり方を否応なしに考えさせられた。